

社会復帰を目指す人たちに寄り添う



瑞宝双光章（更生保護功労）を受章した古川修康さん（写真左）と
養老保護区保護司会会長 西脇恭司さん

平成8年11月から現在まで、多くの保護観察対象者を更正へと導き、養老保護区保護司会副会長、養老保護区保護司会会長、岐阜県保護司会連合会理事、岐阜県保護司会連合会常務理事を歴任するなど、保護司として尽力してきた功績が認められ、瑞宝双光章を受章した古川修康さん（有尾）が5月24日（金）に川地憲元町長を訪問しました。

古川さんは「それぞれの保護観察対象者を理解して受け入れることで、良好な関係を築き、再犯のないよう導いてきました。保護司は、様々な事情により犯罪や非行をしてしまった人たちが立ち直るのを支える大切な役割です。これから先、人材が途絶えてしまわないことを切に祈っています」と心境を話しました。

詩で育んだ豊かな心



5月16日（木）に長願寺（室原）において、4月に死去した詩人の富長覚梁先生を偲ぶ会が多度山瀑泉流 養老吟詠会の主催で行われ、富長先生の功績を振り返るとともに冥福を祈りました。詩について「身の回りのことや自然と会話することで豊かな心が育つ」と魅力を語り、本町においても平成12年度の第1回から「養老町家族の絆 愛の詩」の審査員として務めていただくなど、地域文化を牽引し、発展に大きく寄与していただきました。

参加者は映し出された写真をとおして富長先生との活動実績や思い出を振り返って懐かしむとともに、一人ひとり感謝や別れの言葉を伝えた後で、富長先生が創作した会詩を吟じました。

描かれる作品とふるさと養老



5月27日（月）から6月15日（土）にかけて、有限会社玉華堂ふじた（押越）において養老町出身で名誉町民である日本画家の土屋禮一さんの作品展が開催されました。6月2日（日）には土屋さんによるトークイベントが行われ、会場は多くの人で賑わいました。

土屋さんは「僕は世界中のどこへ行っても、懐かしさを感じます。それは空気や風景などのどこかに、無意識に故郷である“養老”のことを重ねているからだと思います。すべての出会いには理由があり、縁を結んでいます。そういった思いや縁は自分でも気付かないうちに作品に影響を与え、見る人に懐かしさを感じさせるのかもしれませんが」と故郷への思いと描かれる作品の繋がりについて話しました。

江戸和算文化を伝える



江戸時代に田代神社（高田）に奉納された2面の算額「奉献年次算題」（町重要文化財）と「奉納算約次編」について解説した冊子「田代神社の算額 江戸和算文化の真髄を伝える」が神道文化昂揚と普及に寄与するものであるとして、編集した同神社の大橋裕幸宮司が（一財）神道文化会から表彰されました。そのため5月31日（金）に川地憲元町長を訪問し、表彰の報告をしました。

大橋さんは「算額のひとつは町の重要文化財であり、町の文化についても触れていることになったのではないかと思います。編集にあたり、解法や現代語訳、英訳など多くの人に協力していただきました」と苦勞を話しました。